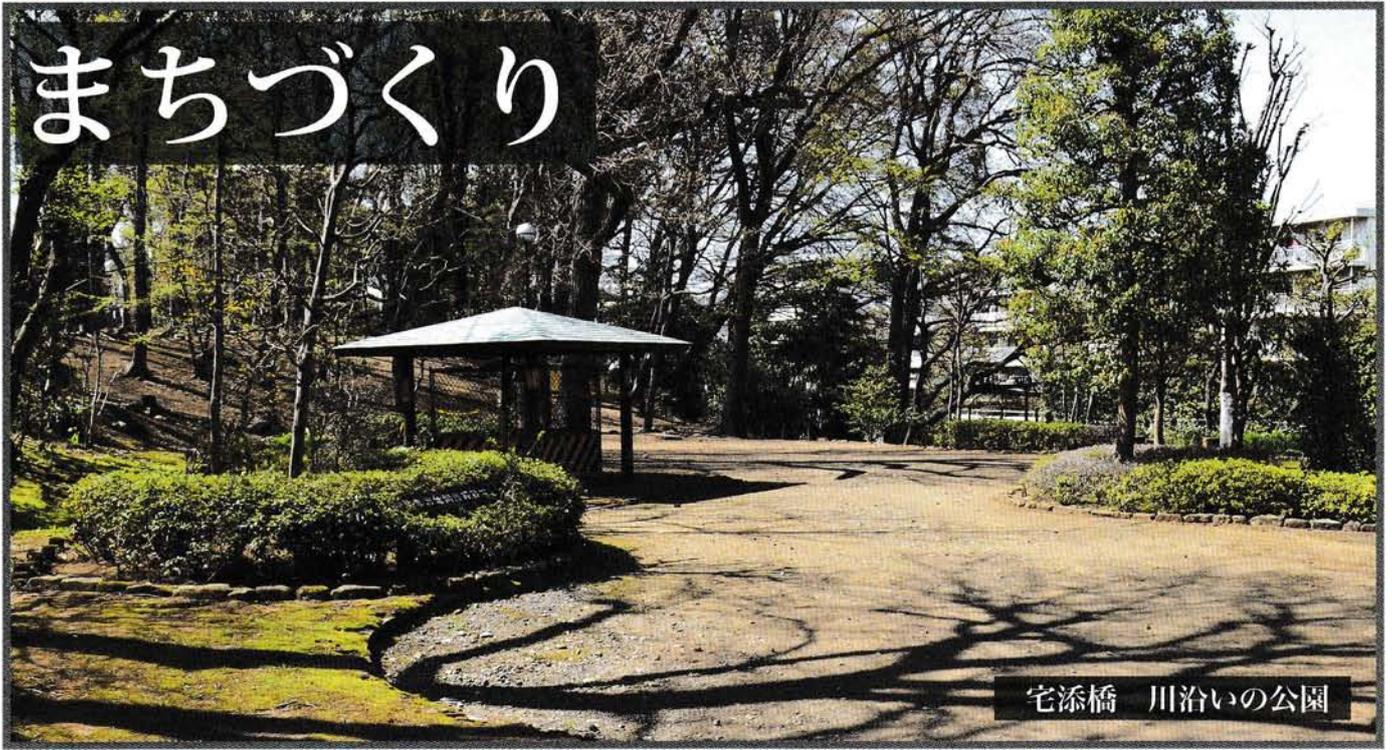


まちづくり



宅添橋 川沿いの公園

緑ヶ丘・仙川 まちづくり協議会通信

No.48 2017年10月発行

ここに美しい緑ヶ丘・仙川があります

四季の花が仙川の色を染め、目を凝らすと川底に大きな鯉が流れるように泳いでいます。宅添橋からの眺めはいつでも「ここにある風景」です。私たちの美しい日常です。都道が完成した後も、川はいつも通りに流れ、シニアの森に続く公園は静かな佇まいのままであつて欲しいと思います。



緑小のすぐ側、緑ヶ丘2丁目を分断するように通る「調布都市計画道路」。平成25年の説明以来4年経ちましたので、現状を「調布市」から伺いました。

現在、計画の変更は無く、着工までにはまだ時間がかかりそうです。上の地図では小さくて分かりませんが、元学校農園の真ん中を通り、仙川を渡り、団地のケヤキ通りに入ります。細かい地図をよく見ると宅添橋が残っているようにも見えます。何処に横断歩道や信号がつくのか、3.5メートルの歩道がどのようになるのか、まだ全く決まっていないということでした。子供たちが毎日横断する道路です。明るくて、安全な道路になるように、考えてみませんか。

人の痛みが分かる子供

調布市立緑ヶ丘小学校
校長 小嶺 大進



どんな子供たちを育てたいのか？学校では、思いやりのある子供、礼儀正しい子供、よく考える子供、心と体の丈夫な子供など、理想とする子供の姿がたくさん挙げられます。

理想とする子供の姿は様々ありますが、私が一番大切にしたいのは、「人の痛みが分かる子供」です。人の痛みが分かる子供とは、他人にも優しく思いやりがあり、自分自身を律す

ことができ、自己肯定感も高い子供です。個人的な意見ですが、こうした子供を育てることで、学校教育の大部分の役割が果たせるのではないかと考えます。

こうした子供を育てるために、学校では教科の学習をはじめ、道徳教育や人権教育など、教育活動全体を通じた取組が必要となります。一例を挙げると「道徳」です。皆様御存知のよう

に、来年度から「特別の教科 道徳（道徳科）」として、教科になります。日本教育史の中でも大きな転換期です。教科になるということは、教科書ができます。また、教科としての評価を行うということです。これまで道徳の授業が道徳教育の要としての役割を果たせていないのではないか、子供たちの道徳性に向き合っていないのではないかと課題もあり、今回、このような教科としての位置付けになりました。単に正論をぶつけ合うだけの意見交流ではなく、「自分事」として考え議論することが大切だと捉えています。

今後も地域の皆様とともに、「人の痛みが分かる」緑ヶ丘小学校の子供たち一人一人を育てていきたいと思えます。

地域に根ざし、愛情溢れた児童館に

調布市子ども生活部 児童青少年課
緑ヶ丘児童館 館長 山崎 守



手作りの衣装でハロウィーン みどわ一つ

少子・高齢化、核家族化の進展、家族や地域における養育機能の低下は、子どもの不登校や引きこもり、児童虐待など深刻な社会問題を引き起こしています。同時に、その解決に向けて家族や地域社会での努力、自治体での取組も続けられています。

調布市の児童館も、地域における子どもの健全育成の施設として、子どもたちの成長・発達、保護者たちの繋がり、地域のコミュニケーションの形成に大きな役割を果たしてきました。そのことは、児童館で育った子どもたちや保護者の声、地域と歩んだ職員の活動が無数に証明しております。

一方、近年、国や自治体の政策の転換や財政状況の悪化、児童館施

設の老朽化等から児童館行政への見直しも始まり、一部の自治体では児童館の縮小計画、廃止等も検討され、児童館のあり方、活動が厳しく問われる環境にもなりました。

しかしながら調布市では、平成17年に「子ども条例」が施行され、子どもは個性が認められ、自分らしく生きる権利をはじめ、個人の尊厳を持ったかけがえのない存在である。

子どもは、調布の「宝」、「未来への希望」であり、喜びや悲しみを共有する家族・友人及び地域の深い愛情に包まれて、社会の一員として大人と共に今を生き、次代を担っている。

これからも、この子ども条例の理念に基づき、地域に根差した児童館でありたいと願っております。

自治会紹介！

Vol. 緑ヶ丘一丁目自治会

「いい街にしたい」
想いが集まるところが自治会です！

10月28日(土)は「秋の集い」
ハロウィーンで愉しもう！
KUNUGIJIDOUYUJEN Am11:00~Pm3:00

緑ヶ丘一丁目自治会は、昭和41年(1966年)に結成され、今年で51年目を迎えました。自治会長は結成以来九代目になる米田桂子氏が務めています。当自治会は仙川を挟んで東側・西側地域に位置し、白百合女子大キャンパスを近隣に仙川、くぬぎ児童遊園など自然を有する緑豊かな地域にあります。住民は一戸建ちを中心に古くから住んでいる方が多く、年齢層も高いのが特徴ですが、その一方で近年は若い家族の方々も増えていて喜ばしいことです。

- 緑ヶ丘・仙川地区境界線
- 緑ヶ丘一丁目自治会



- ★公園 くぬぎ児童遊園
緑ヶ丘仲よし公園
- ★避難所 第一回避難所
・くぬぎ児童遊園
・緑ヶ丘仲よし公園
・白百合女子大学西門前
第二回避難所
・緑ヶ丘小学校
- ★お祭り会場 くぬぎ児童遊園
- ★集会所 緑ヶ丘地域福祉センター

将来の展望

直近の課題は、集会所の確保に大変苦労しているため、将来的には独自の集会所を設置、または借りる際でも安定的に確保できる場所の提供を望んでいます。また交通の利便性を向上させるため、ミニバス運行の実現を切望します。

自治会の役割・活動内容・イベント

「明るく住み良い地域環境づくり」を目的に役員会を定期的開催し、事業活動の推進、情報共有を図っています。特に防災会(東・西地域)を設置、防災体制の強化・啓蒙運動を進めながら、防犯運動、調布市ごみ対策運動、地域清掃運動などを推進し、安心して住める環境を目指しています。住民皆様には親睦を目的に緑風会(老人会)、みどり婦人会、子供会、グリーンサロン1&2を設け、憩いの場となっています。

最大のイベントは「秋の集い」。本年も10月28日(土)の開催を予定しています。例年は長友市長様、他関係者の皆様をお迎えし、また住民皆様のご理解・ご協力を得ながら開催し、好評を頂いています。もうすぐ開催される東京オリンピック・パラリンピックを応援する呼びかけを行いながら、今回は子供たちに大人気のハロウィーンを企画しています。

自治会運営の楽しさや難しさ

自治会運営には皆様のご理解のもとで協力しながら楽しく進めています。一方で大事な情報、例えば防犯・防災などの注意喚起すべきことがどこまできちんと理解・浸透されているか、運営の難しさを感じます。

自治会の自慢

自治会内では大きな問題もなく、最近では自治会運営役員も以前と比べ男性陣も増えてきたことはうれしい限りです。また各親睦会は自治会組織のもとで構成されているため、実行面・予算面でも一体感をもって運営に当たれるので効率化が図れているのではと思います。

文章：緑ヶ丘一丁目自治会 若西信介さん



皆で作るコミュニティガーデン
クィーンズ前の「仙川駅前公園」にて

開催予定

防災訓練

緑ヶ丘小学校校庭

11月25日(土)10:00~12:00

・緑小マンホール型簡易トイレの設置方法(実際に設置できるように市役所をお願いしています)

・AEDの使用方法・初期消火・的を得た通報の仕方・炊き出し訓練(アルファ米試食)お土産有り(パン)

Jアラートが鳴ったら…

屋外 建物や地下に避難

建物がない 物陰に実を隠すか、地面に伏せて頭部を守る

屋内 窓から離れる
窓の無い部屋に移動する

弾道ミサイル落下時の行動について、「内閣官房国民保護ポータルサイト」から引用しています。

Jアラートによる情報伝達は、発射、日本への可能性、上空通過または落下と、情報が変わりますので、注意してお聞きください。発信後の行動を心に留めて、いつも居る場所での行動をシミュレーションしておきましょう。

ちょうふは地域コミュニティサイト

ちょみっと

communitysite.chofu-city.jp/

地域に知らせたいことがあったら
掲示板みたいに使えるサイトが誕生!
まずは検索してみてください

調布市生活文化スポーツ部
協働推進課・生涯学習交流推進課

環境対策分科会

当会には安全対策・文化交流・環境対策の分科会があり、安全や交流の場を考えています。今回は環境分科会の部長にまちづくりの理想や今後の展望を伺いました。

皆様、こんにちは。環境対策部会担当の児島です。私がこの部会を通して実現したいこと、それは「こんな街に暮らしたいをカタチにしましょう!」ということです。そのためには、誰かが造った街ではなく、みんなで創りあげることが大切です。

今後、緑ヶ丘の街は道路計画によりその姿を大きく変えていきます。街のシンボルでもあった団地のケヤキ並木も無くなります。無くなるものは仕方ありませんが、みんなの力で新たに緑を増やすことはできるはずです。

私はこれを機に緑ヶ丘・仙川地区で誰もが自由に参加できる地域の庭としての「コミュニティガーデン」を始めたいと考えています。コミュニティガーデンとは、地域の公園や空

地を活用して花やハーブ、野菜などを育てる地域住民による地域住民のためのガーデニング活動の場です。

さらには、私が最近行っているみつばちプロジェクトを是非緑ヶ丘地区でも実現できたらいいなと考えています。コミュニティガーデンに集まるみつばちから蜂蜜を採集し、みんなで自分の街の蜂蜜を楽しむという暮らしの循環を創るのです。そして、食や遊びの体験を通して仙川崖線など既存の緑地帯の有効活用などへも積極的に取り組んで行きたいと思います。緑と花、そしてみつばちをテーマに人の集まる楽しい場を創っていきます。来年には、環境セミナー「みつばちの生態学」を開催予定です。お楽しみに!是非、ご一緒しましょう。

Close-up

心を活性する懐かしいあの歌

7月29日
うたごえサロン



佐藤英子先生のピアノ伴奏と、吉田恭子先生の元気で軽やかな指揮に合わせ、皆さん一緒に歌うひとときです。第一部は四季の歌と語り。おぼろ月夜・赤い靴・里の秋等17曲を、曲の合間には吉田秀司先生が、それぞれの曲の背景を紹介をしてくださいます。モニターに映し出される美しい絵や写真、解説の言葉ひとつひとつが哀愁を誘い、そしてユーモアも溢れ、歌う気持ちを高めてくれます。第2部はリクエスト曲。いい日旅立ち・一杯のコーヒーから等約20曲を。エンディングの「青い山脈」が流れると、部屋一杯に「あの頃」の「あの想い」が溢れたのか空気感が一気に変わりました。懐かしく優しい2時間。来年もご参加お待ちしております。